

ドイツ語の語句配列（語順）規則

§1 言語の線条性

1. 言語表現の一つの不可避な制約として、意味を荷なう言語単位を**時間軸にそって一線上に並べなければならない**ということが挙げられる。

2. 文肢の順序、すなわち文肢配列を規定する規則は、文のタイプによって規定される**枠規定規則**と、発話内容によって規定される**順序規定規則**とに分かれる。前者は定動詞と述部成分（定動詞と意味的な一かたまりをなす動詞的成分）の位置に関するものであり、後者はそれ以外の文肢の位置に関するものである。後者についてのみここでは述べる。

§2 順序規定規則

枠構造内における文肢配列は**形態的要因、統語的要因、伝達的要因**によって規定される。

1. **形態的要因**に基づく順序規定規則は、文肢の形態的長さに関連するもので、**形態的に長い文肢、あるいは構造的に複雑な文肢ほど後方に置く**という規則である。

Ich habe **ihm ein Buch** geschenkt.

Ich habe **es dem Freund** geschenkt.

Hat **Sie Ihre Frau Gemahlin** begleitet? 奥様はあなたとご一緒されたのですか?

また、前置詞格目的語と自立格目的語が並列する場合、および前置詞句と副詞が並列する場合、それぞれ前者が後方に置かれるが、これも形態的要因に基づくのである。

〔前置詞格目的語と自立格目的語〕

Er bittet **seinen Vater um Geld**.

Er schreibt **einen Brief an seinen Freund**.

〔前置詞句と副詞〕

Er bleibt **deshalb am Sonnabend zu Hause**.

以上のように、ドイツ語では、形態的に長い文肢、あるいは構造的に複雑な文肢ほど後方に置かれるのである。

2. **統語的要因**に基づく順序規定規則は、動詞との統語的關係に関連するもので、**動詞と統語的に密接な関係にある文肢ほど後方に置く**という規則である。

Er war heute sehr **müde**.

Er muss heute sehr **müde** sein.

Er wohnte damals **in Köln**.

Er will mit ihr **in Köln** wohnen.

また、文にとって必須的な成分と非必須的な成分が並列する場合も、必須成分の方が動詞との結び付きが強いいため、必須成分が非必須成分よりも後方に置かれるが、これも統

語的要因に基づくのである（青太字体が必須成分、下線部が非必須成分）。

Er fährt in diesem Sommer **an die Ostsee**.

Er hat gestern mit seinem Freund **seinen Lehrer** besucht.

3. **伝達的要因**に基づく順序規定規則は、伝達すべき情報の順序に関連するもので、伝達上の情報価値が大きい文肢ほど後方に置くというものである。

Ich habe **dem Freund** **ein Buch** geschenkt.

Ich habe **das Buch** **einem Freund** geschenkt.

補足疑問文の答でも、疑問文の中で前提とされている情報よりも新たに提示される未知の情報に後ろに置かれるが、これも伝達的要因に基づくのである。

Was hast du heute gekauft? 君はきょう何を買ったの。

– Ich habe **heute** **ein Fahrrad** gekauft.

私はきょう自転車を買いました。

Wann hast du das Fahrrad gekauft? いつ君はその自転車を買ったの。

– Ich habe **das Fahrrad** **heute** gekauft.

私はその自転車をきょう買いました。

以上のように、ドイツ語では、情報価値の小さな語句ほど前方に置き、情報価値の大きい語句ほど後方に置かれるのであるが、それは、情報価値の少ない既知の情報が先送りされることによって、情報価値の大きい未知の情報を受け入れる心構えが聞き手に作り出され、情報の伝達が容易になるからである。

【注】 -----

情報価値の大きい語句ほど後方に置かれるという伝達的要因は、枠規定規則による配列を除けば、ドイツ語の文肢配列の基本になるものである。形態的規則によって名詞句は代名詞よりも後方に置かれるとされるが、名詞句の方が基本的に代名詞よりも伝達価値が高いのであり、したがって、伝達の観点から眺めた場合でも、名詞句が代名詞よりも後方に置かれるのは当然なのである。また、統語的規則によって必須成分は非必須成分よりも後方に置かれるとされるが、必須成分の方が一般的に非必須成分よりも伝達価値が高いのであり、したがって、伝達の観点から眺めた場合でも、必須成分が非必須成分よりも後方に置かれるのは当然なのである。

なお、日本語の語順規則も、原則的には伝達的要因に基づくのであるから、定動詞の位置を除けば、ドイツ語と日本語の語順は同一であると言える。したがって日本語をドイツ語に直す場合、日本語と同一の順序でドイツ語の語句を並べ、定動詞の位置を適当な位置（平叙文の場合は第2位）に移すことによって、正しいドイツ語の文を作ることができるのである。

太郎は		きょう	花子と	コンサートに	行く
Taro	_____	heute	mit Hanako	ins Konzert	gehen
	↓				
Taro	geht	heute	mit Hanako	ins Konzert.	